



阿波の国保

=Topics=

- 国保制度改善強化全国大会
- 徳島県市町村国保運営協議会会長連絡協議会
- 徳島県国保診療施設地域医療学会
- 保険料(税)収納率向上対策研修会



<<別添>>

- 数字で見る国保医療費の動き(令和6年9月～令和6年11月審査分)
- 国保連合会日誌 (令和6年11月1日～令和7年1月31日)

国保の持続的な制度運営確立のため12項目を決議

—国保制度改善強化全国大会—

令和6年11月15日、東京都千代田区の砂防会館にて、国保中央会主催の国保制度改善強化全国大会が開催され、徳島県からも町長をはじめ11人が出席しました。

国保中央会の大西 秀人 会長(高松市長)は主催者挨拶のなかで、平成30年から施行された国民健康保険の都道府県単位化について触れ「新たな国保制度はこれまで順調に運営されているが、今後ますます少子高齢化が進み、被保険者数が減少する中で、医療費水準の更なる上昇や、低所得者の増加といった構造的な問題は依然として続いている。さらに、昨今の物価上昇の影響などもあり、国保の事業運営は今後も厳しい状況が続くことが見込まれる」と所見を述べた上で、国保制度を将来にわたって持続可能なものとしていくためには、国においても重要な責任を果たすことが強く求められるとし「新たな国保制度を安定的に運営するための大前提となる毎年度3400億円の公費の投入を今後も確実に実施していただくことを強く要請する」と訴えました。

また、生活保護受給者の国保加入の議論については「都道府県と市町村が一体となって安定化に努めている国保財政を著しく悪化させる恐れがあることから一貫して反対する」と強調しました。

続けて、来賓として福岡 資磨 厚生労働相、村上 誠一郎 総務相、田村 憲久 自由民主党元厚生労働相、山井 和則 立憲民主党ネクスト厚労大臣が挨拶しました。

大会では、国保中央会の田島 健一 副会長(佐賀県白石町長)が決議案を読み上げ、医療保険制度一本化の早期実現や、公費投入を確実に実施し、財政支援の充実を図ることなど、12項目の決議が満場一致で採択されました。

大会終了後、決議の早期実現に向け、出席者による関係省庁や国会議員等への陳情を行いました。

《大会決議》

- 一、医療保険制度の一本化を早期に実現すること。
 - 一、国保の財政基盤強化のための公費投入の確保を確実に実施するとともに、保険者努力支援制度等が有効に活用されるよう、適切な評価と財政支援の充実を図ること。
 - 一、普通調整交付金が担う自治体間の所得調整機能を今後も堅持するとともに、生活保護受給者の国保等への加入の議論については、見直しを行わず国としての責任を果たすこと。
 - 一、被用者保険の適用拡大の検討に当たっては、国保の安定的な財政運営を確保し、保険者機能を堅持するという観点を踏まえること。
 - 一、医療・保健・介護人材の確保や地域偏在の解消のため総合的な対策を講じるとともに、公立病院等の医療提供体制を確保するため、十分な支援策を講じること。
 - 一、医療費助成に係る地方単独事業の国庫負担減額調整措置をすべて廃止するとともに、こどもの医療費助成に係る全国一律の制度の創設及びこどもに係る均等割保険料（税）の軽減制度の拡充を行うこと。
 - 一、子ども・子育て支援金制度については、国の責任において、国民の理解が十分に得られるよう分かりやすく丁寧な周知、広報等を行うとともに、国保の運営に支障を及ぼすことがないように必要な財政措置を確実に講じること。
 - 一、国保総合システムは、国保運営の基幹システムであり、その開発や運用に当たっては、市町村等保険者に追加的な財政負担が生じないよう、国の責任において必要な財政措置を確実に講じること。
 - 一、国保連合会が地方自治体の医療・保健・介護・福祉業務支援の役割を十分に果たせるよう、必要な措置を講じること。
 - 一、国民の健康保持・増進及び医療費適正化に向けKDBシステムの更なる活用を進めるため、制度的役割の拡充を図るとともにシステム更改等に係る財政措置を講じること。
 - 一、医療・介護DXの推進に当たっては、地方の意見を十分に踏まえるとともに、国の責任においてマイナ保険証の利用を促進し、従来の保険証の廃止に伴う追加的な事務に対して必要な支援を講じること。
 - 一、国民健康保険組合の健全な運営を確保すること。
-

国保をめぐる情勢、課題について学ぶ

—令和6年度徳島県市町村国保運営協議会会長連絡協議会—

令和7年1月17日、徳島市の徳島グランヴィリオホテルにて徳島県市町村国民健康保険運営協議会会長連絡協議会を開催し、各市町村の国民健康保険運営協議会会長、委員及び国保関係者等17保険者27人が出席しました。

この協議会は、会長相互の連絡調整を行うとともに、国保事業の発展に寄与するため、国保をめぐる諸情勢や課題等の共通認識を図ることを目的に実施しています。

はじめに、稲田 米昭 会長の主催者挨拶と、徳島県保健福祉部健康寿命推進課 橋本 晋作 国保運営室長の来賓挨拶がありました。

講演Ⅰとして、徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔保健衛生学分野 日野出 大輔 教授 から「オーラルフレイル予防から全身の健康へ」と題し、口腔状態が及ぼす全身への影響と医療費との関連性について話されました。

講演Ⅱとして、国民健康保険中央会 池田 俊明 常務理事 から「国民健康保険を取り巻く情勢と今後の課題」と題し、制度改革や子ども・子育て支援金、医療・介護DXの状況及び国保連合会・国保中央会が直面する課題などについて話されました。



第46回徳島県国保診療施設地域医療学会

－ 次世代が輝ける地域医療を～未来へむけて本格的な進化を～ －

令和6年11月24日、徳島県国保会館にて「次世代が輝ける地域医療を～未来へむけて本格的な進化を～」をテーマに第46回徳島県国民健康保険診療施設地域医療学会をハイブリッド方式で開催しました。この学会は地域医療及び地域包括医療・ケアの実践の方途を探求するとともに相互理解と研鑽を図ることを目的として毎年開催されているもので、今年は国保診療施設関係者等122人(WEB参加者含む)が出席しました。



▲開会式の様子

開会式

開会式では、主催者として徳島県国保診療施設運営協議会の野上 武典 会長(勝浦町長)、全国国保診療施設協議会徳島県協議会の須藤 泰史 会長(つるぎ町病院事業管理者)から、来賓として徳島県の後藤田 正純 知事(健康寿命推進課 橋本 晋作 国保運営室長 代読)、徳島県国民健康保険団体連合会の遠藤 彰良理事長(宮内 正彦 常務理事 代読)からそれぞれ挨拶がありました。



▲挨拶をする野上会長

表彰式

開会式に続いて、国保診療施設事業の向上、発展に功績があった者を表彰する徳島県国民健康保険診療施設運営協議会会長表彰の表彰式が執り行われ、野上会長から表彰状と記念品が手渡されました。表彰された方は次のとおりです。



▲表彰式の様子

徳島県国民健康保険診療施設運営協議会会長表彰

美波町国民健康保険美波病院	薬 剤 師	新 谷 隆 司
美波町国民健康保険美波病院	主任看護師	本 田 有 記
美波町国民健康保険美波病院	看 護 師	中 川 和 美
美波町国民健康保険美波病院	看 護 師	東 野 裕 子
美波町国民健康保険美波病院	看 護 師	田 中 直 美
美波町国民健康保険美波病院	臨床検査技師	石 園 瑞 希
美波町国民健康保険日和佐診療所	薬 剤 師	多 田 洋 子
美波町国民健康保険日和佐診療所	放射線技師	光 井 友 貴
美波町国民健康保険日和佐診療所	理学療法士	小 泉 文 昭
美波町国民健康保険日和佐診療所	主任看護師	岸 本 美 和
海陽町国民健康保険海南病院	主任放射線技師	西 田 利 幸
海陽町国民健康保険海南病院	准 看 護 師	別 府 和 美
つるぎ町立半田病院	総務課課長補佐	櫻 間 利 明

特別講演

演 題 「地域で働く医師を育てる」

講 師 かみいち総合病院内科医師

富山大学 上市・地域医療支援学講座 客員准教授 河合 皓太

司会者 全国国民健康保険診療施設協議会徳島県協議会 会長 須藤 泰史

かみいち総合病院内科医師、富山大学 上市・地域医療支援学講座 河合 皓太客員准教授を講師に「地域で働く医師を育てる」と題した特別講演を行いました。

地域で働く若手医師確保に難渋していることを課題にあげ、地域で働く医師を育てるためにはどうするべきかについて講演いただきました。

はじめに、医師としてのこれまでの人生を振り返りながら、なぜ地域の病院で働いているのかについて触れ、やりがいを感じながら働くことができていると話されました。

次に、学生や研修医が地域医療に触れる場が少なく、地域医療の魅力に気づいてもらえていないと指摘され、接点を増やすために診療所や病院は、大学から研修のオファーがあれば受け入れて、楽しく、やりがいを持って働いている姿をみせてあげることが大事なことのひとつであると話されました。

まとめとして、地域で働く医師を増やすためには、学生や研修医が地域医療に触れる機会を増やすこと、オンラインの活用や住環境を提供して、地域で医師を教育できる体制づくりをすることに加えて、地域や病院が働き口として選んでもらえるように努力をするべきであると考えを述べました。

パネルディスカッション



「次世代が輝ける地域医療を～未来へむけて本格的な進化を～」をテーマに、司会者を那賀町立上那賀病院 花田 健太 院長、助言者をかみいち総合病院内科医師、上市・地域医療支援学講座 河合 皓太 客員准教授とし、5人のパネリストがそれぞれ発表を行った後、出席者を含めて全体で意見交換しました。

パネリスト	発表内容
三好市国民健康保険市立三野病院長 宮田 淳也	当院における医師確保の状況
国民健康保険上勝町診療所長 幸田 朋也	地域の診療所でのやりがい
つるぎ町立半田病院 医員 竹内 峻亮	学びの場としての地域医療
海陽町国民健康保険海南病院 医師 國永 直樹	学習環境再考
徳島大学大学院医歯薬学研究部 地域・家庭医療学/総合診療医学分野 特任教授 八木 秀介	医学部における地域医療早期体験の取り組みと 医師定着を目指した今後の展望

研究発表

研究発表は2部に分け、I部の座長を国民健康保険海陽町穴喰診療所 白川 光雄 所長とし、医師部門2題について令和6年1月1日に発生した石川県能登半島地震による災害支援活動の報告をしていただきました。II部の座長をつるぎ町立半田病院 割石 大介 臨床工学科長とし、各施設から看護部門2題、技師部門2題の計4題について日頃の実践をとおした発表がありました。

I部 座長 国民健康保険海陽町穴喰診療所長 白川 光雄		
部門	発表者	発表内容
医師部門	美馬市国民健康保険木屋平診療所長 藤原 真治	組織的な救護活動の重要性について ～本部活動の経験から～
医師部門	つるぎ町病院事業管理者 須藤 泰史	能登半島地震に JMAT(日本医師会災害医療チーム)として災害支援活動に行ってきました！

II部 座長 つるぎ町立半田病院 臨床工学科長 割石 大介		
部門	発表者	発表内容
看護部門	国民健康保険勝浦病院 看護師 川島 和也	転倒転落事故を予防する取り組み
看護部門	三好市国民健康保険市立三野病院 主任看護師 伊藤 美樹	当院における嚥下造影検査について
看護部門	美波町国民健康保険美波病院 作業療法士 海司 智幸	地域に根差したりハビリ体制の構築に向けて
技師部門	那賀町立上那賀病院 放射線技師 竹内 芳城	過疎地域の中核病院における MRI の有用性

.....

保険料(税)収納率向上対策について学ぶ

－令和6年度国保保険料(税)収納率向上対策研修会－

令和6年11月14日、徳島県国保会館にて、令和6年度国保保険料(税)収納率向上対策研修会を徳島県と共催で開催しました。

この研修会は、保険者努力支援制度において収納率向上に関する取組の実施状況が配点割合の高い評価指標とされていることから、保険者の支援を行うことを目的に開催しています。

開催にあたり徳島県保健福祉部健康寿命推進課の橋本 晋作 国保運営室長は、「本県の令和4年度の保険料(税)収納率は94.92%ということで、全国平均の94.14%を上回っているという状況である。皆様の熱心な取り組みに対して改めて敬意を表す。県としても国民健康保険の持続可能で発展した取り組みに向けて、皆様と一緒に取り組みたいと考えているので、引き続きのご協力をお願いします」と挨拶しました。

続いて、本会の三佐和 美千代 事務局次長の挨拶のあと、国民健康保険料(税)収納率向上アドバイザーであり、岐阜県各務原市市民生活部税務課専門事務職員の磯谷 伊久雄 講師から「国民健康保険料(税)収納率の向上対策について」と題した講演を行いました。

講演では、国民健康保険収納率等の現状や収納率向上対策について具体的な事例やご自身の経験談を用いながら説明があり、収納率向上対策の決め手について話されました。

講演後は、事前に提出された2つの議題について、全体での協議を行いました。議題を提出した保険者から説明を受け、複数の保険者から回答を発表し協議をした後、磯谷講師から助言をいただきました。

最後に、徳島県保健福祉部健康寿命推進課国保運営室の仁田 真希 係長から都道府県別保険料(税)収納率の推移や徳島県内市町村別保険料(税)収納率の状況など、国民健康保険事務について説明をしました。

<<別添PDF>>

数字で見る国保医療費の動き（令和6年9月～令和6年11月審査分）

国保連合会日誌（令和6年11月1日～令和7年1月31日）

